

令和8年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>・生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指し、多様な学習活動において深い学びを実現していく。</p>	<p>①生徒が「各教科等における見方・考え方」を自在に働かせられるような、教師の専門性の発揮と不断の授業改善を実施する。</p> <p>②KU（総合的な探究の時間）において、外部コンテストの活用や、成果発表の機会の確保を通じて、探究のサイクルを複数回回すことで活動の質の向上を図る。</p>	<p>①現行カリキュラムに基づくこれまでの授業実践から課題を整理・分析し、資質・能力の三つの柱を基盤とした教科指導を実施する。</p> <p>②-1 教師一人ひとりのゼミを開設し、学年や年度を超えた指導体制をつくり、きめ細かな生徒支援体制を構築する。</p> <p>②-2 積極的な外部コンテストの参加・応募を促す。</p>	<p>①生徒による授業評価（全体）の項目1～6について、肯定的回答割合が9割以上である。</p> <p>②-1 KUの指導体制について教師にアンケートを実施しゼミ運営に対する「円滑に実施できた」とする回答が8割以上である。</p> <p>②-2 外部コンテストへの応募が前年度より増加している。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>・生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。</p> <p>・学校行事や生徒会活動において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していけるよう支援を行う。</p> <p>・生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p>	<p>①学校行事や部活動など集団における活動に参画することで、主体性や創造性を高めさせる。協働するために社会性や規範意識を向上させる。</p> <p>②様々な活動への参加を促して、自身の役割を考え、高い目標を持ちながら主体的に活動できるように支援する。</p> <p>③生徒の状況を把握、共有し、必要な支援を行えるように組織を整える。</p>	<p>①自身の役割を自覚し、主体的に行動できるように促す。また、他者のアイデアを受け入れ、協力する行動がとれるように促す。</p> <p>②生徒会・委員会・学校行事などを主として運営する生徒との連携を密にとり、目標達成に向けて集団を導く力を身につけるように支援する。</p> <p>③配慮が必要な生徒の情報を共有する機会を設け、全教職員で共有する。SC・SSWと連携を密にとりながら、サポートドック等を利用して生徒の機微に気づける体制をつくる。</p>	<p>①学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのみとまり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上である。</p> <p>②学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が8割以上である。</p> <p>③全教職員のアンケートで「生徒の情報共有が迅速である」との回答が8割以上である。</p>
3	進路指導・支援	<p>・高大接続を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による将来の自己の在り方生き方の探究を支援する。</p>	<p>①生徒一人ひとりに高い目標を意識させ、第一志望の進路が実現できるよう支援する。</p>	<p>①-1 総合的な探究の時間をはじめとした各教科・科目における教育活動が、生徒のキャリア形成につながるよう、キャリア教育、キャリア支援の充実を図る。</p> <p>①-2 生徒が最も希望する進路を実現することができるように、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスをはじめとした各種ガイダンスや、学力向上に向けた取組をさらに充実させる。</p>	<p>①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が8割以上である。</p> <p>①-2 各種ガイダンスの事後アンケートで、生徒の理解度および満足度の肯定項目が8割以上である。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
			②生徒が将来の自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、キャリア支援を充実させる。	①-3 教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」やその関連科目の形態・指導内容について一層の拡充を図り、教育学部をはじめとした教職に関わる大学への進学を支援する体制づくりを行う。 ②-1 生徒の進路実現を図るために、生徒・教職員へのガイダンス・周知を行い、協調して支援・指導をする体制づくりを行う。 ②-2 進路実現に向けて令和8年度以降入学生教育課程の改善を進める。	①-3 学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」「教職実践」において、肯定的な回答が8割以上となり、教職関連大学等への志願者数が前年度を維持または上回る。 ② 進路ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、「進路実現に向けた具体的な道筋が理解できた」とする肯定回答が8割以上である。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 ・学校の魅力と特色を積極的に発信する。 ・横浜国立大学との連携の強化を図る。 	①地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 ②学校の魅力と特色を学校説明会やホームページを活用し、積極的に発信する。 ③横浜国立大学との連携の強化を図る。	①近隣学校との交流事業を推進する。 ②本校の受検を検討している中学生とその保護者に向け、生徒主体の学校説明会を運営する。 ③横浜国立大学の教授へ、生徒の探究活動の指導助言等を依頼することで、連携をさらに強化させる。	①交流事業への参加機会が増えている。 ②学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が8割以上である。 ③横浜国立大学との連携事業（探究指導等）の回数を維持し、指導を受けた生徒の満足度が8割以上である。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組む組織とする。 ・生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 ・生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。 	①情報共有を大切にす意識を醸成し、職員同士のコミュニケーションを密に行う。 ②生徒の実情に即した教育活動となるよう、年間予定・月間予定の見直しを継続して行う。また、生徒が安心して通うことができるよう環境を整える。 ③校務の効率化を図るため、DXの推進を図る。	①生徒指導要録や成績処理に向けたチェック体制を見直しながらペーパーレスを推進する。 ②-1 生徒の実情に即した教育活動となるよう、年間予定・月間予定の見直しを継続して行う。 ②-2 災害に備えて、防災訓練等を行う。 ③学校・家庭連絡システム、及びデジタル採点システムの活用を促進する。	①ペーパーレス化により印刷用紙の使用量を前年度比1割削減する。 ②-1 教職員アンケートにおいて、「予定の組み方が適切で、生徒と向き合う時間が確保できている」との肯定回答が7割以上である。 ②-2 防災訓練等を行う。 ③-1 学校・家庭連絡システムの活用が増える。 ③-2 デジタル採点システムの活用が増る。